

■ 前回までの議論

- 令和3年度以降、過疎地域の中でも差が生じていることを踏まえ、「活力ある関係の創出を実現している地域の施策について他の地域への横展開を図ること」を主要テーマとして議論を行ってきた。
- 当初は、市町村ごとの「社会増減」の状況の違いに着目して議論を進めていたが（R3.12、R4.3）、社会増団体について政策的な観点からは明確な共通点を見いだすことは困難だったことから、「場」の存在に着目して議論を行うこととなった（R5.3）。
- 過疎地域の中でも、**活力が維持・向上している地域**においては、共通項として、「地域住民などが集い、対話が行われることで、コミュニケーションが生まれる場所であり、住民の居場所や交流拠点としての役割を果たしている枠組み」、いわゆる「**場**」が存在しているのではないかとの考えのもと、ヒアリング調査やアンケート調査を実施し、**具体的な事例を把握**することとした（前回、R5.10）。

※ 前回の議事 | 「場」に関する議論の方向性についての委員意見

（場の定義・役割について）

- ・ 「場」の定義が分かりづらい。「場（〇〇〇）」と言葉を添えられるとよい。
- ・ 「場」は「住民の居場所」や「通いの場」といった表現ではないか。ある程度福祉と複合的な捉え方でよいのではないか。
- ・ 人と人との組み合わせを「場」と考えたい。「場」は、人と人との対話の場と理解した。「場」に近い言葉は「エコシステム」と考えている。

（場の前提・単位について）

- ・ 「場」が育っていくためには、その地域をどうしたいのかというビジョンをつくるプロセスが重要。
- ・ どの単位で「場」をつくるかは、自治会単位や小学校区単位など融通を利かせたほうがよいのではないか。